

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 食品生命科学科

職階 講師

氏名 鬼頭久美子

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

私は食品生命科学科に所属し、基礎医学、健康科学分野、課題解決型学習の科目を担当している。次年度より研究室生への教育研究指導・支援を行う予定である。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
食品開発PBL・同実習	食品生命科学科	選択	2	40
フレッシュャーズセミナー	食品生命科学科	必修	1	53
食品加工学・保蔵科学	食品生命科学科	必修	3	52
食品加工学・保蔵科学	食品生命科学科	必修	2	45
食品加工学実習	食品生命科学科	必修	2	44
調理学・同実習	食品生命科学科	選択	1	47
栄養疫学特論	環境保健科学専攻（博士前期課程）			2

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

私は、大学で学んだ知識・考え方をもとに、社会でWell-beingやヒトの健康の維持・増進に貢献できる人材を輩出したいと考えている。食品生命科学科で学ぶ、食や栄養に関連する分野は、社会や個人の生活に密接に結びついており、実社会で生かすことができる分野である。幅広い分野であるため、知識を社会で活用するためには、基礎知識の習得とともに、食品・栄養、人々や社会について、様々な観点から考え、判断し実践していく力が必要である。関連する分野の基礎知識・技術の教授とともに、広い視点からの見方や考え方、知識がどのように応用できるのかという点を最も伝えたいと考えている。これらにより、大学で学んだ知識・技術・考え方を様々な環境で生かせる人材を輩出したいと考えている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

講義では、『基礎知識の習得』と、『実践や活用のイメージができること』を重視している。豊富な基礎知識が関連分野の実践と応用につながるため、まずは考え方や原理の理解といった、基礎知識の習得を目指している。また、知識が活用されている身近な事例や最新の状況を紹介して、知識と活用が結びつく授業内容を意識している。学生が社会や自分の生活を意識した、知識の活かし方を考える機会を作っていきたいと考えている。

実習科目では、『実際に手を動かして体験すること』と、『自分の考えを集約し、わかりやすく発信すること』を重視している。学んだ内容について、手を動かし体験することは、スキルの習得とともに、知識やスキルを応用・活用する際の初めの一歩となる。また、個人の課題や発表は、自分の作業や考えをまとめて、伝えるトレーニングとなると考えている。

課題や発表では、良い点と改善点をフィードバックして、学生が今後に生かせるようにしている。スライドを作成する際は、作り方のコツやプレゼンテーションをする際の話し方を丁

寧に助言して、内容をわかりやすく伝える技術や発信力を養う機会としている。

グループワークでは、『他者との協働』に重点を置いている。成果物を完成させる過程において、教員やグループとコミュニケーションをとりながら、計画のマネジメントや役割の調整を行うスキルを身に着けることを目指している。グループワークの様子から、タイミングを見てアドバイスをを行うことで、学生に気づきを与え、他者との協働のトレーニングの機会となるよう心掛けている。他者との協働の機会を通じて、社会人としての素地を養うことができると考えている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

講義では、個人での発表と教員によるフィードバックの機会を設けている。実習では、食品工場での製造や生産者との交流などのフィールドワーク、事前の動画視聴による反転授業、グループでのディスカッションおよび発表を取り入れている。発表では、複数回の発表を設けて、教員からのフィードバックやグループ外の学生からの意見を次の発表に活かせる構成にしている。

(2) ICTの教育活用

有

- ・ Azamoodleを活用して、授業資料・参考資料の提示や、授業動画、課題提出を行っている。
- ・ 授業内容に関連する動画を提供している。
- ・ グループワークでは、Google Meetや、資料共有のためGoogle Driveを活用している。
- ・ アンケートを使用する際は、Google Formを使用している。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

私が担当する授業では、身近な食品や食環境を題材とすることが多いため、学生にとって認知度の高い商品や具体的な事例を取り上げ、学習への興味・関心を喚起するよう心掛けている。また、学んだ内容が自分の「食生活」や「食環境」が密接に関連していることを理解し、社会での展開をイメージできるよう工夫している。実習科目においては、「体験を通じた理解」を重視している。グループワークにおいても、可能な限り全員が作業に主体的に関わることができるよう授業を設計し、知識の習得にとどまらず、実践的な理解が深まることを目指している。

(2) 学生の理解度の把握

B

小テストや課題を通して、学生の理解度を継続的に把握している。得点が伸び悩んでいる学生や課題の内容に十分な理解が見られない学生に対しては、個別に声をかけ、必要に応じて補足説明や助言を行うなど、理解の向上を図っている。

実習においては、各グループの状況を巡回しながら確認し、進行上の課題や理解の不足が見られる場合には、その場で適切な支援や指導を行うよう努めている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

A

学生が興味・関心を持ちやすいテーマや身近な事例を取り入れた課題を設定するよう努めている。学習内容を自分の生活と関連づけて考えられるよう課題設定をすることで、授業外においても主体的に学びを深める姿勢の育成を図っている。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

講義では全体への問いかけや確認を中心としつつ、実習では各グループを巡回し、個別に声をかけるよう心掛けている。学生の理解状況や困りごとを早期に把握し、適切に支援できるよう努めている。また、授業開始前および終了後に教室に在室することで、学生が気軽に相談や質問をしやすい環境づくりを行っている。質問への対応は、対面に加えメールも活用し、授業時間外においても継続的なコミュニケーションを図っている。

(5) 双方向授業への工夫

B

学生および教員間の意見交換、発表の際のフィードバックの機会を設けることで、教員からの一方向的な伝達にならない双方向型の授業づくりを意識している。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

該当なし

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

授業評価において、『食品や調味料の実物を見ることができ、理解しやすかった』とのコメントがあったため、実物教材の活用や食体験の機会を増やし、体験的な理解を促す授業設計へと改善した。

また、『小テストによる復習が有効であった』との回答を踏まえ、新規担当科目においても小テストを導入し、継続的な振り返りと学習内容の定着を意識した構成とした。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

満足度の高いコメントが多く得られるようになってきていると感じる。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

学生に好評だった点をさらに意識して、次年度の授業に活かしていきたい。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

小テストや課題提出状況を通じて、学生の学習意欲や理解度を把握し、それぞれの状況に応じた支援ができるよう努めている。特に個別対応が必要と判断した学生については、授業後に課題への取り組みを支援するなど、柔軟なサポートをするよう取り組んでいる。

また、出席状況や課題提出に問題がある学生については、早期に連絡を取り、学科教員と連携しながら、必要な支援を継続的に提供している。

(2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

出席不良者を除き、すべての学生が単位習得の合格点を達成できた。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

可能な限りFD研究会には参加するようにしている。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

短期的な目標:

- ・わかりやすい、面白いと感じてもらえる授業を行うため、講義内容のブラッシュアップに努める
- ・個々の学生の理解度を把握し、柔軟に対応する
- ・教員と学生とのコミュニケーションを増やす。対話を増やすことで、学生の興味や発想力、潜在的な能力を発展させられるようアプローチする

長期的な目標:

講義科目に関連して、教員自らが知識を実践につなげる取り組みを増やすよう努めていきたい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

シラバス、小テスト、課題、教材、授業評価アンケート